

高齢心不全患者における左室駆出率の違いによる ADL 低下要因の違いについて

1. 研究の対象

2016年3月から2019年6月までに「心不全」で入院した75歳以上の方

2. 研究目的・方法

心不全は、心臓のポンプ機能が低下して、呼吸困難感や動くことが困難になる病気です。心不全はここ近年で発症する患者が増加しており、今後さらに増えていくことが予測されています。特に高齢者では入院に伴って、歩くことや入浴動作などの日常を過ごすために必要な能力の低下を引き起こすことが多いと言われております。また、その後の日常生活に介護を要する要因などにもなります。

心不全は心臓からの血液の流出率の違いによって種類が分類されています。流出率によって発症する原因が異なると言われております。そのためにそれぞれの心不全の特徴をとらえて、日常生活を送るための能力の低下の原因を予測することは、入院期間を短くすることや効率的なリハビリテーションの介入に役立てることができます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

心不全患者のカルテ情報から性別、年齢、在院日数、同居者の有無、認知症の有無、リハビリ実施期間、血液データ、心エコー検査、理学療法評価等を抽出します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

磐田市立総合病院 リハビリテーション技術科

代表番号 Tel：0538-38-5000

研究責任者：

静岡県磐田市大久保 512-3 Tel：0538-38-5000

磐田市立総合病院 リハビリテーション技術科 鈴木亮馬